

大阪府に大きな被害をもたらした過去の気象事例 「平成30年（2018年）7月豪雨（6月28日～7月8日）」

**能勢では7月の月降水量第1位を上回る大雨。京都府、兵庫県などに大雨特別警報
～西日本中心に1府10県に大雨特別警報発表。記録的な大雨により土砂災害や浸水害が多発。～**

【概況】

平成30年6月28日以降、梅雨前線が日本付近に停滞し、また29日には台風第7号が南海上に発生、北上して日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、台風第7号や梅雨前線の影響により大雨となりやすい状況が続いた。このため、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、各地で甚大な被害が発生した。前線や湿った空気の影響で、6月28日から7月8日での総降水量が四国地方で1800ミリ、近畿地方で600ミリを超える大雨となったところがあり、西日本中心に1府10県に大雨特別警報発表した。

大阪府では7月5日から8日を中心に大雨となり、能勢で降り始めからの総雨量（7月5日00時から8日10時）が498.5ミリを観測、7月の月降水量第1位を上回る大雨となり、この大雨の影響により以下の被害が発生した。

気象庁は、この大雨について「平成30年7月豪雨」と名称を定めた。

人的被害：死者0名、重傷者2名（高槻市、豊能町）

住家被害：家屋全壊3棟、半壊1棟、一部損壊18棟、床上浸水21棟、床下浸水69棟

（被害状況：「大阪府災害年報（平成30年中）」より）

